



建立時の華やかさが再現された行元寺の山門

歴史ウォークについては、10ページ
「図書館だより」をご覧ください。

夷隅の古寺

「波の伊八」の彫刻

匠探訪

③〇

「いすみ市の古寺を訪ねて」をテーマに図書館主催の歴史ウォークが9月下旬に行われます。県の南東部に位置する

いすみ市には、近年「波の伊八」の彫刻で知られ、観光キヤンペーンなどでも注目されている寺院があります。

まず最初に訪ねるのが、旧夷隅町の行元寺（ぎようがんじ）。歴史をたどっても夷隅郡内有数の寺とされ、本堂や客

殿の彫刻が「幻の名工・高松又八」初代波の伊八」作と判明したことで、その関心が高まりました。

数年前の修理の際、本堂の欄間（らんま）彫刻の制作者が徳川幕府御用の彫物師高松又八とわかりました。高松の作品は戦災などで焼失し、現在、残っているのはこの寺だけとのことです。

寺では葛飾北斎の浮世絵に影響を与えたとされる初代伊八作の客殿欄間彫刻と合わせPRしたことで、多くの人が足を運んでいるそうです。

最近では、山門の彫刻も建立時の華やかさに再現された、と報道されました。

市内では、飯高神社本殿や玉垣（たまがき）の彫刻が文化財指定され知られています。この彫刻の制作年代なども行元寺の彫刻を高松作と発見した同じ研究者の調査でわかったものです。

同氏からは、飯高周辺の神社彫刻に「がま仙人」が多く見られるとの指摘もあり、そ

れらが何かのきっかけで目の見ることを期待したいものです。

次に訪ねるのが、旧岬町の清水寺で、この寺は「坂東三十三観音霊場第三十二番札所」です。坂東三十三所は関東1都6県の広範囲にわたり、千葉県には上総と下総に3か寺ずつ、安房に1か寺の7か寺があります。今年は「全国百観音」のうち、西国三十三所の花山法王一千年忌や秩父三十四所の子歳（ねどし）開帳の年にあたり、各地の寺院で本尊が開帳されています。

最後は、旧岬町にある飯縄寺（いづなでら）です。「天狗（てんぐ）の寺」と通称されるように、県指定文化財の本堂正面に天狗の面が掲げられ、ここにも「波の伊八」の彫刻があることで訪れる人も多いとのことです。

これら古寺のほか、旧夷隅町の「田園美術館」や戦国時代の城跡「万木まんぎ」城址公園などもウォークします。

城址公園展望台から四方を見渡すと、丘陵に囲まれた景觀が印象的で、わたしたちの地域とは違った趣が感じられます。

間八日市場図書館 ☎ 73・3746